羅針盤

田邉　洋
Hiroshi Tanabe
天理よろづ相談所病院皮膚科 部長

伝承とは

奈良に住み3年が経った．この街は数多の神社仏閣史跡などの遺産が寄り添い，今日も四季折々に平穏な観光都市として賑わっている．しかし，この街に暮らすと，それぞれの遺産には激動の有為転変があったことを知らされる．そして，歴史の荒波を超えてそれらをわれわれに託した，伝承への強い意志に気付かされる．つまり，事物を発願した歴史上の一偉人よりも，人為の激変や天変地異から遺産を守り，それを後世に伝承しようとした名もない意志たちが，実はこの街の基礎をなしているのだ．一方，移り気な時勢に延命を強いられたものの後世からは見捨てられ，無残な姿を今に晒す保存物もあり，これも人がなした伝承の姿でもある．

先人からの贈り物を散逸させ崩壊に任せるのか，それともその価値を後世に伝承すべきなのか，この街の路傍に朽ちる石仏が，今われわれに問うている．

奈良・京終にて

片や，老いた私の懸案は皮膚真菌症の知識や技術の伝承である．日々の臨床現場に絶えることのない皮膚真菌症患者と，それを専門とする皮膚科医の絶滅危惧の相反にどう対応すればよいのだろう．激動する技術情報の渦中で皮膚真菌症はどこへ行くのか？

その答えを日々現場で模索する臨床医諸氏に聞きたかったのだが，この度本誌を通してそれを伺う機会を得た．この領域を今どうとらえ，それぞれの現場からどう発信されるのか，諸氏の伝承への意志を知りたくなった．そして，平成から令和への変換期の10連休に，私は本誌の編纂作業に入った．知己の乏しい私が見ず知らずの先生方に失礼を鑑みず寄稿をお願いした．ところが，諸先生方からは，大変好意的に受容していただいた．この場を借りて寄稿を賜り，また仲介していただいた諸先生方に心から感謝を申し上げたい．

内容は表在性真菌症全般としたかったが，簡潔に「白癬の今」とした．一部白癬以外の皮膚真菌症の項目が含まれる点はご容赦いただきたい．

皮膚科臨床の基本でもある白癬をはじめとする皮膚真菌症が，新時代にどのように伝承されるべきなのか，はたまた朽ち散逸するのか，読者皮膚科臨床医の皆様の伝承への強い意思を促したく思う．